

第4回新しい学校づくり推進委員会 会議概要

- 1 日 時 平成26年2月4日(火)
開会：午後2時30分
閉会：午後4時00分
- 2 場 所 大安公民館2階 大会議室
- 3 出席委員 森脇健夫 織田泰幸 小林共子 土岐昌男
小寺光紀 藤本孝徳(代理 児玉光明) 水貝明子
児玉勝彦(田中成典) 山下秀人 三輪美紀 近藤恵理子
佐野謙二 渡部正利
- 4 欠席委員 井上征樹 吉野 睦 岡 正光 児玉由布子
- 5 出席した事務局職員
教育委員長 川瀬正幸 教育長 片山富男
教育部長 近藤重年 教育総務課長 小林幸次
学校教育課長 小川専哉 自然学習室長 岡 忠義
教育研究所長 近藤利彦 教育研究所所長補佐 出口孝貴
学校教育課課長補佐 岡本利和 学校教育課課長補佐 北本吉宏
教育総務課 伊藤宗幸 教育総務課 大久保美佳
- 6 会議次第
 - 1 開会
 - 2 前回会議録の確認(教育総務課)
 - 3 いなべ市新しい学校づくり推進ビジョン(案)について
 - 4 意見交換
 - 5 PTA及び市民への説明について
 - 6 閉会

7 会議の要旨

委員長・1名の傍聴希望者があり、いなべ市教育委員会傍聴規則に準じて許可する旨を委員に諮り、了解を得た。

・傍聴希望者に傍聴規則を朗読し説明した。

日程第3 いなべ市新しい学校づくり推進ビジョン（案）について

日程第4 意見交換

（いなべ市新しい学校づくり推進ビジョン（案）について、前回の会議以降に修正した箇所を説明した。）

委員・p1「いなべ市新しい学校づくり推進ビジョン策定にあたって」について、1段落中、1は「学びのつながり“生き抜く力”を育む」に対応しており、2は「仲間とのつながり“生き合う力”に対応しており、3は「未来へのつながり“生き拓く力”に対応していると思われる。2と3の文中には、それぞれ「絆」「志」が入っているが、1には「智」の記述がないので、入れたほうが良いのではないかと。また、1の後半に「思い描いた未来を創り出す力を育む」とあるが、これは、未来に関する内容なので、3に入れたほうが良いのではないかと。さらに、1は学びに関する内容なので、「学び」という言葉が入ったほうが良いのではないかと。

次に、2段落中の「本来あるべき姿」とはどういう姿なのか。

最後に、5段落中「英知と総意を小中一貫教育への移行に向け」とあるが、英知と創意の後には「結集して」のほうが良いのではないかと。

事務局・1段落目については、ご指摘のとおりではあるが、この3つの方向性については東日本大震災の直後に打ち出したものである。今回、推進ビジョンの内容と無理に繋げたところがあり、整合性がつかない箇所ができてしまった。もう一度、事務局で検討してみたい。

「英知と創意」の部分については、ご指摘のとおり、「英知と創意を結集する」という熟語であるので、表記については検討したい。

「本来あるべき姿」については、その後の部分に課題を何点か挙げている。これらの課題と反対の姿が本来あるべき姿であるにご理解いただきたい。

委員・p2「小中一貫教育のねらい」の(1)(2)(3)がp3の“生き抜く力”“生き合う力”p4“生き拓く力”とリンクしていると思われる。(1)「生き抜く力」の後に（豊かな力・確かな学力・健やかな体）とあり、p3「学びのつながり～“生き抜く力”を育む～」の文中①②③は「確かな学力」に該当し、④は「健やかな体」に該当するが、「豊かな心」に該当する項目がないが、いかがかと。

事務局・分類をすると、ご指摘のとおりになるが、心を育むことはすべての教育活動に共

通することであるとご理解いただきたい。

委員・p1の2段落中に「集団から一人になった時にひ弱さを露呈してしまうなど、個の確立ができていない姿も見受けられます。」という文がある。今まで「員弁の教育」では、集団づくりや学級づくりを大切にしてきた。子どもたちが学級の中で心をひとつにし、まとまる姿を見ると、教員はとでも嬉しくなる。しかしその一方で、個人に帰ったときに、ひ弱さが見られることがあり、両輪が大切であると感じている。学級の質が良くなると、一人ひとりの個性も認め合う豊かさが出てくるし、一人ひとりが伸びやすい環境になると思う。「いなべの教育」の時代となった今、「集団づくり」と、もう一方の「個人力」や「ひとり力」の両輪を大切にすることが課題であると感じている。

委員長・「集団づくり」と「ひとり力」の二つの原理は、矛盾することではなく、どちらも必要で、どちらも高めていくことが大切であると考えている。

それでは、大幅な変更意見や修正意見はなかったもので、字句の修正、構成の整理等は、事務局に一任することも含めて、いなべ市新しい学校づくり推進ビジョン(案)について、ご異議ありませんか。

委員・異議なし

委員長・いなべ市新しい学校づくり推進ビジョン(案)については、承認されました。

日程第5 PTA及び市民への説明について

(保護者向けの資料「小中連携教育から小中一貫教育へ」について、前回の会議以降に修正した箇所を説明した。)

委員・資料の裏面の施設一体型一貫校の説明中、◎の文が少しわかり難いように感じる。複式学級の解消が急務であること、小学校を再編すること、新校舎の建設を、それぞれ別の項にしたほうがわかりやすいのではないか。

事務局・ご指摘のとおり、修正します。

委員・前回の会議の際に、保護者へ資料を配布する前に、教師版の資料を配布するということであった。教職員へ、きちんとした資料を配布し、その中で「こうすると良い」といったことも載せていただきたい。保護者から質問を直接受けるのは、教職員や学校長であるので、よろしく願いたい。

委員・表面の「こんな取り組みを考えています」欄について、「コミュニケーション科」と「未来いなべ科」だけが具体的に記載されている。他の項目の表現と比べると「特色を活かした新教科」という表現でも良いように思うが、具体的に記載したということは、これが目玉であると考えて良いのか。

委員長・この配布資料については、過渡的な段階での説明であることと、他の項目の表現

- とのバランスの問題であると思うがいかがか。
- 事務局・これについては、新しく小中一貫教育を進めるにあたって、何が出来るのかという
ことに保護者の関心があると考えている。特色を活かした新教科の創設という
表現で書けないこともないのだが。
- 委員長・では、この部分について、他の委員の意見はどうか。
- 委員・他の項目は、教員ならばイメージが描ける。しかし、もし「新教科の創設」の記載
だけだと、一体何のことなのかと質問が出ると予想される。一步踏み込んで書い
てあるほうが、教員もイメージができるので良いと考える。
- 委員・新しい学校をつくるのだから、ここが新しいというポイントがあるほうが良いと思
う。夢や希望を感じられるような内容になっていると思うので、このままで良い
と考える。
- 委員長・委員からご意見をいただいたので、最終的な判断は事務局に任せたい。
- 委員・「こんな取り組みを考えています」欄について、いくつかの取り組みが挙げてある
が、小中一貫教育を導入することによって新しく取り組むものと、小中一貫教育
を導入しなくても取り組むものが混ざっている。小中一貫教育を導入すること
によって、こういう活動が、よりやり易くなるということがわかるような表記を
工夫することが望ましいと思うがいかがか。
- 事務局・小中一貫教育という新しい教育を目指す中で、今までの教育でも取り組んできた
が、さらにこれから市内全体で取り組み、充実させていこうという思いを込めて、
載せている。
- 委員長・「地域における体験的な学習の充実」「体力向上の取り組みの充実」については、
今後の夢や構想が伝わるような表記をお願いしたい。
- 委員・「こんな取り組みを考えています」欄について、保護者には内容が伝わって良いと
思うが、教職員が見ると、現実的なことを考えてしまうので、質問が出ることが
予想される。そんなときに、校長が答えられるように、次回の校長会で、この「こ
んな取り組みを考えています」の内容について、具体的な説明をしていただきたい
い。
- 事務局・校長会で、推進ビジョンについて説明をする予定である。ただ、具体的な細かい
内容については、次年度からの中学校区の推進協議会で議論していただくことを
大事にしたいと考えている。
- 委員・PTA部会で中学校のクラブ活動について、意見が出た。学校によってないクラブ
があるので、クラブを増やしたいがどうすればよいかという質問があり、生徒数
と教員の数でクラブ数が決まるという説明であった。保護者は、今後、学校が取
り組むスポーツを増やすことが出来ればと望んでいる。そこで、小中一貫教育の

体力向上の取り組みやコミュニケーション科の創設などに関連して、クラブを増やすことを今後の教育課題として検討していただきたいがいかがか。

事務局・部活動についても、中学校区の推進協議会での検討課題となると考えている。

委員長・事務局には本日出された意見を検討し、修正するところについては、事務局一任で修正をお願いしたい。

以上で、本日の日程は終了します。

日程第7 閉会